

### 平成30年度 学校評価実施報告書

学校番号 33 学校名 千葉県立船橋法典高等学校 課程名 全日制

領域	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学校経営	<p>1 教育活動のさらなる充実による「信頼される学校づくり」について</p> <p>① ホームページの更新を適宜行い情報発信することができた。特に中学生とその保護者に関心の高いTOPICS・INFORMATIONの更新については、4月～11月末で、63回（月平均7.9回）であった。</p> <p>② 中学校訪問は、6月45校・11月26校でそれぞれの中学校訪問をした。また、中学生対象の学校説明会は、夏秋の2回の合計で、中学生791人（保護者425人）の参加があった。夏の説明会は前年度同様各教室を会場で実施し、好評であった。</p> <p>③ 「開かれた学校づくり委員会」を計画どおり年3回開催（うち1回はミニ集会）、また地区青少年委員会や地域自治会等の会合には学校から計8回の会合に出席し、開かれた学校として地域との連携を強化した。</p>	<p>① ホームページの更新について保護者、地域住民からも高い評価が得られているので、引き続き、学校ホームページの充実に努める。</p> <p>② 平成30年度の夏の学校説明会は各教室を会場にして実施し、好評であった。2回目は体育館で開催し本校の学校紹介ビデオを上映するなど工夫を行った。次年度に向け中学校の行事の状況をリサーチし実施日時を決定していく。</p> <p>③ 開かれた学校経営のために「開かれた学校づくり委員会」や地域（自治会・青少年委員会等）との連携については引き続き強化を図る。</p>
	<p>2 今後の計画の策定と段階的实施について</p> <p>① 「将来計画検討委員会」は2回の開催であった。今年度は、少人数クラス編成の持続可能性も課題として、現実的で実務的な検討がなされた。</p> <p>② 平成29年度文科省の研究指定を受け、「高校生の基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業」2年目として最終報告年度として研究紀要を作成した。長期的にも、定着から更なる学力向上を目指した将来計画を模索したい。</p>	<p>① 次年度も若手職員の意見も取り入れ「将来計画検討委員会」のより一層の活性化を図る。少人数クラス編成を本校生徒の実態に合わせ1学年を8クラスから7クラスへ変更する。</p> <p>② 平成29年から2年間学校としての研究課題として「高校生の基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業」に取り組んだ成果を基に将来にわたる学力向上の方策についても検討する。</p>
	<p>3 不祥事を起こさない職場づくりについて</p> <p>① 年間3回の目標申告と能力発揮にかかる管理職と職員との面談を実施。通年にわたって校長・教頭共に授業及び校内巡視を行い、職員とのコミュニケーションに留意した。</p> <p>② 不祥事関係の情報は、新聞記事等を用いて教頭が朝会で具体的に示し、指導の機会とした。</p> <p>③ 若手モラルアップ委員会を中心に自発的な授業公開を企画実施するなど、士気の向上が図られた。また、不祥事防止研修の企画運営を行ったモラルアップ委員会でも、若手委員が中心となって活動した。</p> <p>④ 9月に実施したストレスチェックの結果分析に基づいて衛生委員会を実施し、職場としての集団評価について検討した。</p>	<p>① 管理職と教職員及び教職員同士のコミュニケーションを活発にするための、各種面談、授業参観、校内巡視等を継続して行う。</p> <p>② 法令遵守意識の涵養に努める。新聞記事や事例に基づいた具体的情報提供や指導を継続する。</p> <p>③ 不祥事防止研修の企画運営だけでなく、引き続き、職員の規範意識の向上のため若手モラルアップ委員会を機能させる。</p> <p>④ 衛生委員会を活用して、引き続き教職員の心身の健康管理状況の把握と、必要な指導及び助言を行う。</p>

<p>学習指導</p>	<p>① 学校評価の生徒アンケートのうち、「先生の授業の工夫」70.0%、「授業内容の理解」72.8%、「学力の向上」55.1%であり、生徒の授業満足85%を目指した目標には届かなかった。基礎力診断テストのデータは大きく向上している。</p> <p>② 年間2回の授業公開週間を計画通り実施した。また、初任教諭、若手教員の研究授業が実施された。また、ミドルリーダー教員の研究授業もそれぞれ実施され、授業改善に向けて協議が行われた。</p> <p>③ 調査研究事業の一環としての、学び直しの朝自習を中心とした基礎学力定着に向けたPDCAの取組により、基礎学力の向上が数字的にも達成された。</p> <p>④ 校長による年間を通じた授業参観と指導助言により、職員の授業改善への意欲を高めた。</p>	<p>① 基礎学力定着に向けた調査研究事業の中で、本校生徒にとっての基礎学力（本校で身につけさせたい学力スタンダード）を策定した「法典ハードルプロジェクト」を実質的に機能させた。学校評価の生徒アンケートを行い授業について職員は工夫を凝らしているが、個々の生徒に合わせ更なる工夫をしていく。学力向上を生徒が実感し自身に繋げる方法を行う。</p> <p>② 今年度は、「基礎学力の定着に向けた学習改善」の調査研究事業の2年目として、授業改善を目指した授業公開等を実施した。また、基礎学力とはなにか、A.L的な授業改善の方策、個別の学習支援の方法等の実践的職員研修も企画して実施した。</p> <p>③ 調査研究2年目として、学び直しの次の段階の実践課題を定め、高次のPDCAを策定し検証した。</p> <p>④ 上記研究課題の取組の一環として、授業について管理職から指導助言を行う。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>① 学校評価の生徒アンケートで、生活指導関連の3項目での肯定的評価の割合は、「ルールを守る」88.6%、「欠席・遅刻等」81.3%、「生徒指導」66.5%であり、保護者アンケートの同3項目では、89.6%、86.7%、84.1%が肯定的評価であった。概ね高い評価を得たが、特に保護者のポイントは昨年度も高い評価であった。「いじめ防止対策基本方針」に則り持ち帰りのアンケートを毎学期実施し生徒の正確な状況を把握した。</p> <p>② 生徒面談週間、保護者面談週間を6・11月と年間に2回実施し、家庭との連携をふまえた生徒理解を進めた。</p> <p>③ 特別支援校内支援委員会を兼ねた教育相談委員会での情報交換を週1回定期的に行い、生徒指導部と学年の密な連携が図られている。</p> <p>④～⑦ 多くの生徒が落ち着いた学校生活を送っており、問題行動等は少ない。今まで積み上げてきた指導が各学年ともに浸透しており、学年・担任と保護者との緊密な連絡がとれている。</p>	<p>① 遅刻を繰り返す生徒の指導、及び自転車通学生徒の指導、SNSの使用方法等は更なる指導への工夫が必要である。着こなしについては、生徒の事態にあった指導方法を職員全体で共有し指導改善していく。いじめアンケートにより把握した状況を担当職員で把握し関係職員で早期に対応していく。</p> <p>② 保護者との連絡を密にし、学校の教育活動への理解と協力を求めていく。</p> <p>③ 教育相談委員会との連携をさらに密にし、不安を持つ生徒に対しアンテナを高くし、生徒が安心して学校生活を送れるように職員間の共通理解を更に深める。</p> <p>④～⑦ 欠席・遅刻・早退の数を減らすことを目指し、保護者の協力のもと遅刻については特に段階的に指導を行う。</p>
<p>キャリア教育</p>	<p>① 「学校評価」アンケートの進路指導に関する項目において肯定的回答の割合は、生徒72.9%、保護者79.0%と高い評価が得られた。</p> <p>② 1年進路ガイダンス（6月進路講演会11月上級学校等バス見学3月カタリバ） 2年進路ガイダンス（6月進路講演会11月分野別・2月3年生合格体験談） 3年（4月）分野別説明会・進路ガイダンス（5月面接指導Ⅰ・分野別・6月面接指導Ⅱ）就職説明会（5回）・内定者セミナー（1月）大学短大説明会・専門学校説明会（5月入試全般・9月推薦入試・内定者指導）SPI検査（6月）、進研マーク模試（6月）小論文模試（6月）看護模試（6月）その他必要に応じて説明会・面接指導を実施した難関大学（神田外語大・駒沢大・東洋大・東京農大・城西国際薬学部など）に推薦入試で合格、学校推薦による就職内定率2月（100%）。公務員試験、自衛隊3名、千葉県警察1名・県職員1名。</p> <p>③ 引き続き積極的に企業訪問を実施した。今年度の求人票数は975求人票数であった。</p> <p>④ 夏季休業中の時間をうまく活用し個別相談と個別指導の充実により、生徒に自信を持たせた指導を行い高い就職内定率を示した。</p>	<p>① 年間2回の面接を活用し、生徒・保護者からのニーズを把握し、個々に応じた進路情報を充実させる。</p> <p>② 発達段階に応じた計画的な進路ガイダンスや内容の充実を図る。また、法典タイムやLHRを有効に活用し、個々の生徒の進路希望に対応した進路指導を心がける。また、毎月の「進路News」の発行、適宜「学年進路ニュース」の発行により進路進捗状況の共有を図るなど、進路指導部と学年の連絡を密にして、連携のとれた指導を行う。3年生については3者面談をおこない、進路部と連携しながら個々にあった進学指導や就職指導を行った。</p> <p>③ ホームページ等を利用し、進路情報の発信を充実させる。</p> <p>④ 進路室・資料室の整理整頓・整備に心がけ、より生徒が相談しやすい環境を整え、長期休業中の時間を活用し進路室等の使用頻度を更に高める。</p>

<p>特別活動</p>	<p>① 緑城祭では、生徒会による実行委員会を組織し、開閉会式など主体的な運営をすることができた。文化祭では沖縄修学旅行を意識した調べ学習の掲示を行うなど、工夫した内容を成功させた。また、文化系部活動も音楽と書道をコラボさせ、質の高い創作意欲溢れた発表を行った。</p> <p>② 4月末日の部活動加入調査で、加入率67%であり、昨年度からさらに3ポイント増えている。定着率も高く、県大会等で活躍する部活動も増えている。</p> <p>③ 部活動や生徒会行事などの場面で、少しずつ教員主導型から生徒主導型へと質の変化が見られている。</p>	<p>① 行事終了後にアンケートを実施して問題点を整理し、改善の手がかりとする。(年度末までに行事ごとの改善点をデータ化し、次年度に向け、確実に引き継ぎができるようにする。)</p> <p>② 部活動の活性化を維持することで、今後も加入率・定着率の向上を図る。</p> <p>③ 生徒会行事の活性化のため、生徒会本部役員や各委員会の生徒活動の高揚を図る。</p>
-------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------